



CROWN

クラウン誕生30周年にあたって

日頃は、格別のお引立てにあずかり、ご芳情のほど厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、永年ご愛用いただいておりますクラウンが、昭和30年1月に発売以来、おかげ様で満30年を迎えていただくことになりました。これも、ひとえに皆様方の変わらぬご愛顧、ご支援の賜と、心から感謝申し上げます。

30年前を振り返りますと、我国経済は、戦後の復興をひとまず成し遂げ、新しい飛躍への胎動を感じさせていた頃であります。自動車業界におきましても、欧米技術との提携が話題を呼び、昭和30年を境として日本のモータリゼーションの幕は、切って落とされたのであります。

その中でトヨタは、日本人の頭と腕による日本の実情に合った車造りこそ、我々の進むべき道であるとの確信のもとに、まさに社運をかけて初の純国産乗用車クラウンを登場させたのでございます。以来、皆様のご叱正、ご教示を向上の糧として、日々研鑽を積み重ねてまいりました。その結果、クラウンは、それぞれの時代を画する日本の名車として、つねに国産乗用車を先導し続けることができたのでございます。

こうして歴史を辿るにつけても、クラウンは、まさにトヨタを象徴する車であると思われます。今後とも、皆様のご期待にお応えすべく、クラウンの名にふさわしい車造りに邁進する所存でございます。なにとぞ、このクラウン誕生30周年を機に、倍旧のご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げる次第でございます。

トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長

豊田章一郎



あでやかなフォルムに秘めた、日本初3000DOHCの吹上がり。
そして新世代の足=ペガサス^{ツインカム}(フルフレーム)^{4輪独立懸架}が、走りの味わいをさらに深めました。

4Door Hardtop/Royal Saloon & Royal Saloon G/3.0 DOHC & ECT
^{ツインカム}



ボデーカラー：スーパー・ホワイト 写真(4ドアハードトップ・ロイヤル・サルーンG)



クレースコンピューター 体型ナビコンは注文装備です
写真は実際の走行状態を示すものではありません。



マルチアジャスター・フルマイコンハーネストは主文装備です。

高い静肅性と大いなる余裕。最新技術の粋を傾注して
いま、ゆとりのクラウンは、セダンの頂点をひときわ高く磨きあげました。

Sedan/Royal Saloon & Royal Saloon G/3.0DOHC & ECT

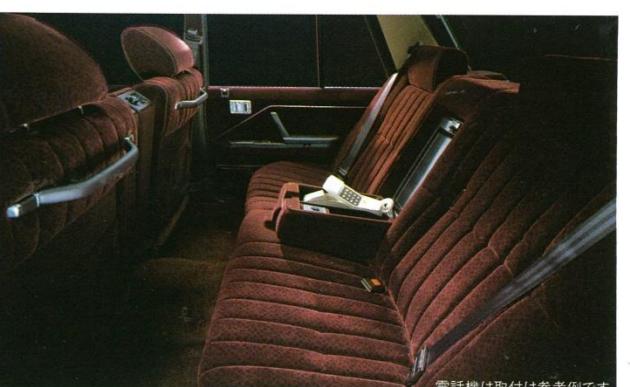
ツインカム



ボディカラー：ワインレッドメタリック 写真はセダン・ロイヤルサルーンG。



写真は実際の走行状態を示すものではありません。



電話機は取付け参考例です。

懐い時代を彷彿とさせる、

広告でも、数多く話題を呼んだクラウン。新聞、テレビ等を中心とし

クラウンの広告キャンペーン。

たキャンペーンが、それぞれの時代を懐しく想い出させてくれます。

白いクラウン

高級車のパーソナル時代を先どりして
新しい意識を提案した“白いクラウン”。
この頃の高級車は、ほとんど濃いボデーカラーを指
向していました。そこに白いボデーカラーを提案した
この広告は、時代を先どりして高級車のパーソナル
ユースに対応した画期的なものでした(昭和42年)。



日本の薫り。 新しいクラウン。



美しい日本のクラウン

新時代の高級車の姿を幅広くアピール。
「美しい日本のクラウン」キャンペーン。
誕生20年目を迎えた、ついに日本の乗用車のリーダーとしての役割を果たしてきたクラウン。このキャンペーンでは、第3の高級車といわれた4ドアピラードハードトップを発表し話題を呼びました(昭和49年)。



“いつかはクラウンに”



伝統と現代感覚を調和させたクラウン。
「日本の薫り」は、その漂う気品を表現。
クラウンは、日本の心を一貫して追求してきました。
その設計思想には、情緒を大切にするきめ細かな配慮が流れています。この広告では、伝統に美しく調和するクラウンの“気品”を表現しました(昭和54年)。

“いつかはクラウンに”的キーワードで
クラウンへの憧れの心情を語って展開。
クラウンは、アンケート調査でも、「日本を代表する
高級車」との評価を広くいただいています。この広告
では、クラウンに乗ることの誇りと憧れの心情を語り
多くの皆様のご支持をいただきました(昭和58年)。

